

2. 研究の詳細

プロジェクト名	漢代国制の地政学的研究において基礎となる歴史地形図の作成		
プロジェクト期間	平成 27 年度		
申請代表者 (所属講座等)	杉村 伸二 (社会科教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
<p>①研究の目的</p> <p>本プロジェクトの目的は、中国漢代における地形や郡・県データを盛り込んだ歴史地図を作成することである。本プロジェクトで作成した歴史地図は、今後、さらに時間的推移による状況変化を加えていくことで、漢代国制の歴史的展開を総合的に把握するための根本的なデータ資料にまで高めることを目指しており、いわばその第一歩となる作業である。</p> <p>②研究の内容</p> <p>申請者が現在行っている中国漢代における国制の歴史的展開の考察を行う上で、漢代の歴史地図の利用は必要不可欠である。通常、漢代史研究においては、譚其驤主編『中国歴史地図集』を活用することが一般的であるが、地域ごとに分割しているうえに縮尺も統一されておらず、研究者がそれぞれの問題関心に即して加工して利用しているのが現状である。その際、多くの場合が白地図に河川の状況が記された程度のもので作成している。中国古代史専門の研究者は、地図作成に関する技能はさほど高くはなく、技術的限界もあって、簡素な地図しか作成できていない。</p> <p>一方で、現在の漢代国制史研究では、簡牘史料から地図や交通路に関する研究が進んでおり、また郡県の在り方についても、王国や侯国など封建制の要素も交えたいわゆる「郡国制」による地方統治の在り方や、それらが前漢二百年の時間的推移によりどのように変化したのかなど、多角的な視点からの考察が求められてきている。そうした多角的な視点から漢代国制について研究するためには、従来の白地図では対応しきれない。そこで、本プロジェクトでは、地理学分野で活用されている地図作成用の専門的なソフト「ArcGIS」を用い、新たな歴史地形図を作製する。</p> <p>本プロジェクトでは今後の時間的推移によるデータ変化の集積までを視野に入れ、まずはその基礎となる地形図と郡県の位置に関する基礎的なデータを加えた漢代歴史地形図の作成を行う</p> <p>③研究の方法・進め方</p> <p>歴史地形図作成用のノート型 PC および GIS ソフト「ArcGIS」を購入し、研究協力者の黒木貴一教授の指導の下、「ArcGIS」を用いて漢代歴史地図を作成した。基礎となる地図は、譚其驤主編『中国歴史地図集』第二冊（曉園出版社有限公司、1991 年）の 11 枚の分割地図である。これらは前漢平帝の元始二年（A.D.2 年）の状況を表したものであり、地域ごとに縮尺の異なる地図に分割されており、これらを緯度、経度の座標に基づいて一枚の地図に貼り付け、そのうえに新たなレイヤーを置いて、そこに歴史地図集にしたがって漢代の県の位置をポイントしていった。その際、元始二年当時の所属郡国情報を、『漢書』地理志に従って附しておき、今後の漢代の地政学的研究の基礎的な歴史地形図として利用できるようにしておいた。</p>			

④実施体制

研究代表者：杉村伸二（申請者）…研究の統括、地形図作成実施、研究成果の取りまとめ

連携研究者：黒木貴一（社会科教育講座教授）…「ArcGIS」の操作指導、地図取り込み作業の補助

研究協力者：前田哲也（中等教育教員養成課程社会科専攻4年生）…地形図作成・データ入力補助

⑤平成27年度実施による研究成果

GISソフトに習熟するのに時間を要したこと、研究費の配分時期の関係から、データ入力補助を担当する学生の教員採用試験（二次試験）および卒論執筆時期に当たってしまい、当初予定した時間より大幅に作業時間が少なくなってしまったこと等の要因により、当初達成する予定であった歴史地形図全体を完成させるには至らなかった。

しかし、最も基礎となる歴史地図集を正確な座標にマッピングする作業を終え、それをもとに前漢元始二年（A.D.2年）の県のポイントと所属情報を付した属性テーブルの作成までは達成することができた。

本研究をもとに申請した、平成28年度科学研究費の基盤研究（C）（一般）「GISソフトを活用した前漢郡国制の地政学的研究」に採択された。よってこの作業は引き続き科研費を使用して推進していく予定である。

⑥今後の予想される成果および⑦研究の今後の展望

本研究で作成した基礎的な歴史地図に、中国の地形データを加えることで、漢代の郡県の状態を、政治的状況に地形を加えた地政学的な視点から考察することが可能となるだろう。さらに、郡国県侯国などの所属情報の時間的変遷を地形図の上でデータベース化する予定であるが、今後この地図の上に各県に繋る史料上の様々な情報を付加していくことで、総合的なデータベースに発展していくことが可能となる。例えば文献に登場する人物の出身地のデータベースを地図データベースに付加すれば、全国的な人材登用の傾向が地図上で可視化することができ、人事制度や官僚制研究にも新たな視座が得られるだろう。このほかにも位置に関連した様々な情報がこのデータベースのもとに統合可能であり、本研究期間にとどまらずその後の大きな展開につながるものと考えている。

⑧主な学会発表及び論文等

平成28年度中に本学紀要にて発表予定。